

彼女の名前はマハリタ
今、世間で注目の踊り子だ。
貴族 名のある金持ち 国の役員まで
彼女を見ようと会場へ足を運んだ。



しかし彼女には裏の顔があった。



彼女はある裏組織のメンバーだ
魔法を使い重要人物の暗殺や機密情報の奪取を行っていた

「男なんてホント馬鹿ばかり。
どんな強い男も私の魅力の前には敵わないわ。
ひざの上で権威ある男が幸せそうに
死んでいくのを見るの私大好きよ。」



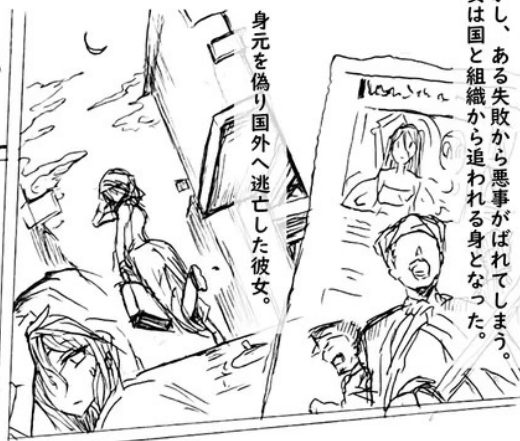
表では世界から注目される踊り子
裏では組織のスパイ
そんな二重生活を楽しんでいた



捕まった彼女はオークに売られた。



彼女は捕まってしまった。



身元を偽り国外へ逃亡した彼女。

しかし、ある失敗から悪事がばれてしまう。
彼女は国と組織から追われる身となった。



しかし組織が彼女を追っていた。

「これからは私の送りたかった普通の人生を送くろう。」
そう安堵した。

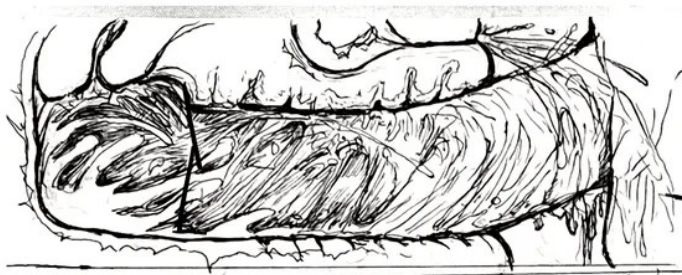


マハリタ
スパイ容疑で逃亡中、湖に身を投げて入水自殺したと
表の歴史では記載される。



もう麗しの踊り子と呼ばれた彼女はいない。
そこにいるのは将来オークの子を孕むであろう雌だけだ。

オークの男根は
彼女の股間に
精子をぶちまけ続けた。



抗えぬ快樂に身体を染められていった。



彼女の新しい人生が始まった。





快樂に溺れる彼女。
もう立派なオークの雌となった。
今では自らオークの赤ちゃんを求めている。
そして、

すごい、
こんな男がいるなんて知らなかった。



私の事なんてお構いなしに
求められて
守られて
愛されて



私いますごく幸せ感じちゃってる

旦那様





高価な衣装。美しい住まい。素敵な料理。
ここには一切ない。
あるのはみすぼらしい服。古い家。雑多な料理。
今の彼女はそれで十分だった。

もう他人からの評価は必要ない。
彼女はオークの彼から愛され、
守られるだけで幸せだ。

そんな日々が続いていく。。



